

いきいきホスピタルにゅーす

2018.8

病院職員がモデルになります



筑波大学芸術専門学群の授業内で制作された、写真作品「つくば、働くひと」。昨年度は大学病院の医師や看護師、薬剤師、事務職員がモデルとなり、それぞれの『夢』をテーマに作品がつけられ、けやき棟ホスピタルモール（中庭横通路）で展示中です。患者さんにも好評をいただき、今年度も継続して実施することになりました。今年履修した学生に大学病院のことを知ってもらうため、院内ツアーを7月11日に実施しました。入院病棟や陽子線センターのほか、屋上ヘリポートなど普段は入ることができない場所も見学し、学生はこれからの制作に期待を膨らませていました。今後はモデルが決定され、インタビューをしながら写真撮影が始まります。作品は年度末に展示予定です。授業の進行状況も都度お伝えしていきたいと思います。

長野の風景



けやき棟とB棟をつなぐ6階の渡り廊下に展示している洋画作品の展示替えを行いました。今回は筑波大学洋画コースの学生が、学外実習で長野県戸隠に訪れ、風景画を描きました。戸隠神社や小鳥ヶ池の凜とした空気が漂う作品となっています。ぜひご覧ください。

病院ガーデンが色鮮やかに



「筑波大学病院入口」バス停近くにある病院ガーデン。8月2日に筑波大学芸術系の小野裕子先生や研究室の学生、筑波大学のサークル“園芸クラブ”の学生が花の植え替えを行いました。今年3月に設置した立体作品のまわりに、マリーゴールドやサルビアなどの色とりどりの花々が出迎えてくれます。まだまだ暑い日が続きますが、近くをお通りの際はのぞいてみてください。